

# 市長に聞く

## 歴史と文化の道

～鹿児島島の息吹を感じながら歩く～

■市長は「歴史と文化の道」にどのような思いをお持ちですか。

城山をはじめ西郷隆盛銅像、鶴丸城跡など数々の史跡や文化財、さらに市立美術館やかごしま近代文学館・メルヘン館などの文化施設が集積する「歴史と文化の道」一帯は鹿児島を代表する歴史観光ゾーンです。

本市は島津氏の城下町として発展し、近世においては我が国における近代産業発祥の地であり、明治維新を成し遂げた多くの英傑を輩出するなど、近代日本の礎を築いたまちです。ですから、市内に残されているさまざまな歴史資源はどれをとっても、全国、さらには世界に誇れる私たちの貴重な宝だと思っています。



市長 森博幸

その中でも、県立博物館の前から西郷銅像を通り、私学校跡まで続く国道10号に沿ったこの道は、まさに島津700年の歴史と文化を感じられる道であり、石垣やお堀、錦鯉の泳ぐ水路などが調和して落ち着いた景観と風情を創り出しています。

さらに本市が日本におけるガス灯の発祥地であるという史実にちなみ、道路沿いに設置されたガス灯の淡い懐古調の灯は温かみのある雰囲気醸しだし、市民や観光客に安らぎを与える「歴史の道」です。

また、本市は、我が国の近代洋画を確立した巨匠・黒田清輝をはじめ、和田英作、藤島武二、海老原喜之助など数々のすぐれた洋画家や、向田邦子、海音寺潮五郎など本市ゆかりの作家も数多くおり、それら美術界、文学界を代表するゆかりの深い作家の人物像や作品を鑑賞できる施設が立ち並ぶ「文化の道」でもあると考えています。

■歴史と文化を生かした本市のまちづくりについてお聞かせください。

鹿児島島のシンボルである西郷隆盛銅像の前では、観光客が記念写真を撮っておられる風景をよく目にしますが、この一帯はまさに観光鹿児島島の顔であるといっても過言ではありませぬ。

九州新幹線全線開業から3年目を迎えた今、新幹線パワーを持続させるためにも、リピーターを増やすことが重要です。各歴史・文化施設の魅力アップを図っていくことはもちろん、かごしまボランティアガイドによるまち歩

きの充実など、地域資源を最大限に生かしながら、「また訪れたい」と思っていただけのような観光地づくりを引き続き進めていきたいと考えています。

また、平成30年には明治維新から150年の節目を迎えます。これに向けて、昨年度からカウントダウン事業を実施し、その年ごとに、近代日本の礎を築いた鹿児島に関わりが深い出来事を題材とするイベントなどを開催するとともに、今年度は新たにPRキャラバン隊を組織して、本市の魅力在全国にアピールしてまいります。

また一方、文化振興の面では、23年度に策定した「文化薫る地域の魅力づくりプラン」に基づき、美術、音楽、地域伝統芸能に重点を置いて各分野の地域資源を掘り起こし、地域住民、NPO、ボランティア、事業者など市民みんなで地域文化を守り育てる取り組みを進めてまいります。

そして、各地域における市民文化活動に光を当て、分野別・季節別・地域別などさまざまな切り口での情報発信を行うことにより、文化振興を通じた「元気な地域づくり・人づくり」を進めていきたいと考えています。



平成24年11月 文化薫るスターティングイベント第2弾「想いつながる夕べ」(中央公園)